

【 復活讃詞 第1調 】

きゅせ え いしゅよ、イウデヤのひとはかを
 救世主 人墓
 ふうじて、へいそつなんぢのいさぎよきみを
 封兵卒爾 潔 軀
 まもるとき、なんぢはみつかめにふくかつ
 守時 爾 三日目 復活
 して、せかいにいのちをたまえり。
 せ 界 生 命 賜
 ゆえ にてんぐんはなんぢいのちをほどこすの
 故 天軍 爾 生 命 施
 しゅによべり、ハリストスよ、こうえいは
 主 呼 光 榮
 なんぢのふくかつにきし、こおえいはなんぢ
 爾 復活 歸 し 光 榮 爾
 のくににきす、ひとりひとをいつくしむ
 國 歸 獨 人 慈
 しゅよ、こうえいはなんぢのおもんばかりに
 主 光 榮 爾 慮
 きす。

【 奇跡者ニコライのトロパリ 第4調 】

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き
光 榮 父 子 と 聖 神 歸

す、

ぎょう じつ は なんぢ を ぼくぐん の た め え に し ん
行 實 爾 牧 群 爲 え に 信

こ う の の り 、 おんじゆう の か た 、 せつせ い の きょう し
仰 則 温 柔 模 節 制 教 師

と あ ら わ せ り 、 ゆ え に なんぢ は ひ く き を も っ
顯 故 爾 卑 以

て た か き を え 得 、 ま づ し き を も っ て と み を え 得
高 貧 以 富 得

た り 。 せ い せ い し ゃ し ん ぶ ニ コ ラ イ よ 、
成 聖 者 神 父

ハリス ト ス か み に わ れ ら の た ま し い の す く わ れ ん
神 我 等 靈 の 救

こ と を い の り た ま え 。
祈 給

【 奇跡者ニコライのコンダック 第4調 】

い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン、
今 何 時 世 世

せいなるものよ、なんぢはミラじょうにありて
 聖者 爾 城 在
 せいなるつとめをおこなえり、こくしょ
 聖務 行 克 肖
 うしゃよ、なんぢはハリストスのふくいんにしたがいて、
 者 爾 福 音 遵
 なんぢのいのちをなんぢのひとびとのためにす
 爾 生 命 爾 人 人 爲 捐
 て、つみなきものをしよりすくいたまえ
 罪 者 死 救 給
 り。ゆえにせいにせられてかみのおんちよ
 故 聖 神 恩 寵
 のおおいなるひみつしゃとおなれり。
 大 秘 密 者 爲

【 聖三の歌 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我
 らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) 世に、

アミン。



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖なる神、聖なる勇者、聖なる
 じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
 常生者我等を憐
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖なる神、聖なる勇者、聖
 なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
 常生者我等を憐
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖なる神、聖なる勇者、聖
 なるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 常生者我等を憐
 れめよ。こうえいはちちとこせいしん
 光栄は父子聖神
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 歸今何時世世
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 聖なる神、聖なる勇者
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 聖常生者我等を

あわれめよ。
憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第1調 及び 聖人の第7調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅ} プロキメン、^{われらなんぢ} 主よ、^{たの} 我等 ^{ごと} 爾 を ^{なんぢ} 頼むが ^{あわれみ} 如く、^{われら} 爾 の ^た 憐 を ^{たま} 我等に垂れ給え、

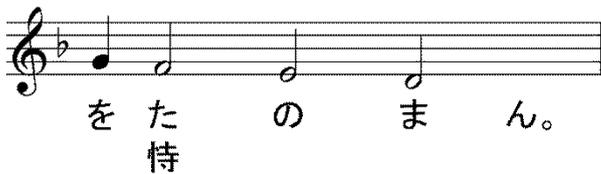
しゅ よ 、 わ れ ら なんぢ を た の む が ご と く 、
主 我 等 爾 頼 如
な んぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま
爾 憐 我 等 垂 給
え 。

誦經) ^{ぎじん} 義人よ、^{しゅ} 主の ^{ため} 爲に ^{よろこ} 喜べ、^{さんえい} 讚 ^{ぎしゃ} 榮するは ^{かな} 義者に ^{かな} 適う、

しゅ よ 、 わ れ ら なんぢ を た の む が ご と く 、
主 我 等 爾 頼 如
な んぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま
爾 憐 我 等 垂 給
え 。

誦經) ^{ぎじん} 義人は ^{しゅ} 主の ^{ため} 爲に ^{たの} 樂 ^{かれ} しみて、^{たの} 彼 ^{たの} を ^{たの} 恃まん、

ぎ じ ん は しゅ の た め に た の し み て 、 か れ
義 人 主 爲 樂 彼



【 使徒經 (アポストロス) 229 端 エフェス書 5 章 8 節～19 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが ^{じん たつ} エフェス人に ^{しよ よみ} 達する書の讀、

代禱) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい ひかり こ ごと おこな けだしん み およそ じあい こうぎ しんじつ あ なんぢ} 兄弟よ、光の子の如く行え。蓋神の實は凡の慈愛と公義と眞實とに在り。爾

^{らかみ よろこ ところ なに つまびらか み むす くらやみ おこない あづか なか} 等神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗昧の行に與る勿れ、

^{むしろこれ せ けだしかれら ひそか おこな こと い または べ およ せ こと} 甯之を責めよ。蓋彼等が隱に行う事は、言うも亦耻づ可し。凡そ責めらるる事は

^{ひかり よ あらわ けだしおよ あらわ こと ひかり ゆえ い い ものお し} 光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、寐ぬる者起きよ、死

^{ふくかつ なんぢ たら ここ もつ み おこない つつし むち もの ごと} より復活せよ、ハリストス爾を照さん。是を以て視よ、行を慎みて無智の者の如く

^{すなわちち もの ごと とき おし ひ あ こ ゆえ しりよ もの} せず、乃智ある者の如くせよ、時を惜むべし、日は悪しければなり。是の故に思慮なき者

^{な なか すなわちかみ むね なに さと またさけ よ なか こ よ ほうとう} と爲る勿れ、乃神の旨の何なるを覺れ。又酒に酔う勿れ、此れに由りて放蕩あり、

^{すなわちしん み せいえい かしょう ぞくしん しふ もつ くち とな こころ わ} 乃神に満てられよ。聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、口に唱え、心に和して、

^{しゅ さんび} 主を讚美せよ。

(比較用 口語訳) 光の子らしく歩きなさい—— 光はあらゆる善意と正義と眞実との実を結ばせるものである—— 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。 彼らが隠れて行っていることは、口にしているだけでも恥ずかしい事である。 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。 明らかにされたものは皆、光となるのである。 だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。 死人のなかから、立ち上がりなさい。 そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。 そこで、あなたがたの歩きたたによく注意して、賢くない者のようにはなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。 今は悪い時代なのである。 だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。 酒に酔ってはいけない。 それは乱行のもとである。 むしろ御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

【 使徒經 (アポストロス) 335 端 エウレイ書 13 章 17 節～21 節 】

代禱) 睿智、

誦經) 聖使徒パウエルがエウレイ人に達する書の讀、

代禱) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、爾等の教導師に順いて、之に服せよ、蓋彼等は神の前に答を爲す

べき者として、爾等の靈の爲に徹醒す、彼等をして悦びて之を行わしめよ、歎息

して行わしむる勿れ、此れ爾等に益なきが故なり。我等の爲に祈禱せよ、蓋我等は善

き良心を有てるを信ず、一切の事に於て善きを行わんことを望めばなり。我が殊に祈

禱を爲すを求むるは、速に爾等に還されん爲なり。願わくは平安の神、永遠の約

の血に由りて羊の大なる牧者たる我等の主イイスハリストスを死より起しし者は、

其悦ぶ所を爾等の中に爲して、其旨を行わん爲に、爾等を凡の善事に全う

せんことを、イイスハリストスに由りてなり。願わくは光榮は彼に無窮の世に歸せん、

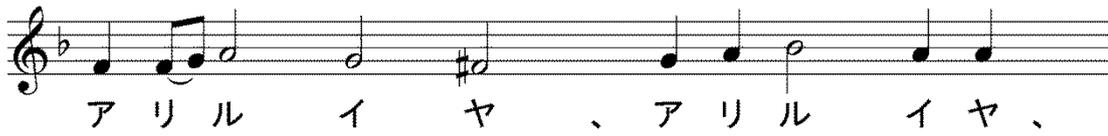
アミン。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。わたしたちのために、祈ってほしい。わたしたちは明らかな良心を持っていると信じており、何事についても、正しく行動しようとして願っている。わたしがあなたがたの所に早く帰れるため、祈ってくれるように、特別にお願いする。永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アマメン。

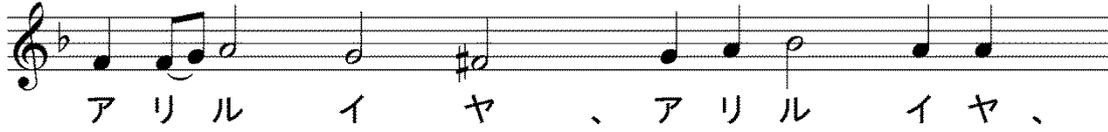
代禱) 睿智、

誦經) アリルイヤ、

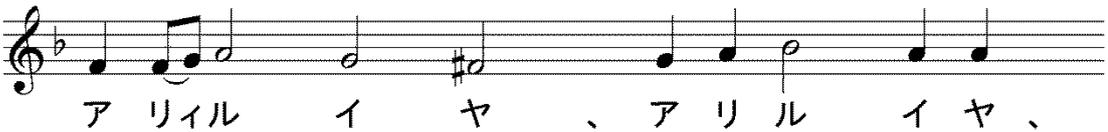
【 アリルイヤ 主日第1調 及び聖人の第2調 】



誦經) ^{ねが}願わくは^わ我が^{ため}爲に^{あだ}仇を^{かえ}復し、^{われ}我に^{しょみん}諸民を^{したが}従わ^{かみ}しむる^{さんしょう}神は^讃頌せられん、



誦經) ^{なんぢ}爾の^{しさいら}司祭等^ぎは^き義を^{なんぢ}衣、^{なんぢ}爾の^{しょせいじゃ}諸聖者^{よろこ}は^悦ばん、



【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書85 端 17 章12~19 節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{でん}ルカ傳の^{せいふくいんけい}聖福音經の^{よみ}讀、



代禱) ^{つつし}謹みて^き聽くべし、

誦經) 彼の時 イイス 或 村 に入るに、癩 病 者 十 人 彼 を 迎 え、遠く 立ち て、聲 を 揚 げ て 曰
 えり、イイス 夫 子 よ、我 等 を 憐 め。イイス 彼 等 を 視 て、曰 えり、往 きて、己 を 司 祭 等
 に 示 せ。彼 等 往 く 時 潔 まれり。其 中 一 人、己 の 愈 されし を 見 て、返 り て、大 聲 を 以 て
 神 を 讚 榮 し、イイス の 足 下 に 俯 伏 して 感 謝 せり、彼 は サマ リ ヤ の 人 なり。イイス 曰 え
 り、潔 まりし 者 は 十 人 に 非 ず や、其 九 は 何 處 に 在 る か、此 の 異 族 人 の 外、如 何 ぞ 返 り
 て、光 榮 を 神 に 歸 せ ざる。又 彼 に 謂 えり、起 ち て 往 け、爾 の 信 は 爾 を 救 えり。

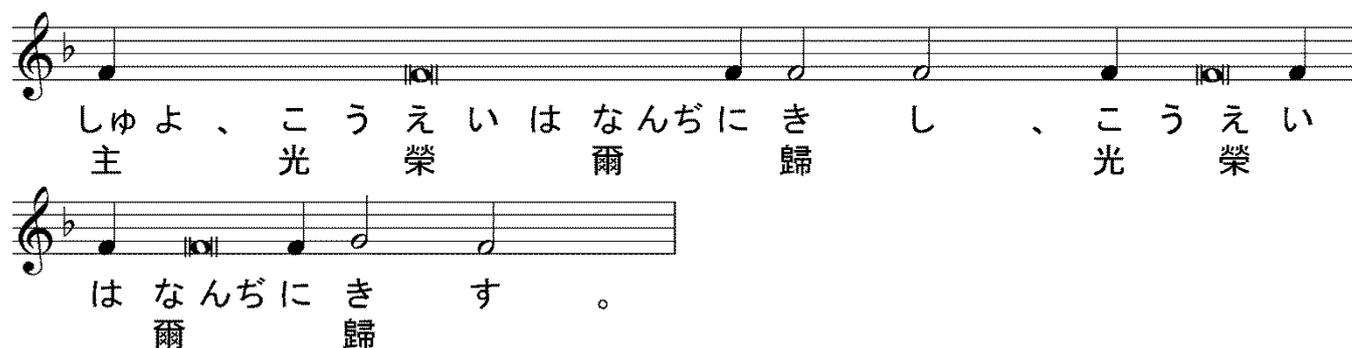
(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方
 で立ちとどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエス
 は彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行
 く途中で彼らはきよめられた。そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめた
 たえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは
 彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。神
 をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言わ
 れた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 24 端 6 章 17~23 節 】

代禱) 謹みて聴くべし、

誦經) 彼の時 イイス 平 地 に 立 てり、爰 に 其 衆 くの 門 徒、及 び 衆 くの 民、イウ デ ヤ の 四 方 イ
 エル サ リ ム 并 に ティ ル と シ ド ン と の 海 濱 よ り して、彼 に 聴 かん 爲、且 己 の 病 の 醫 され
 ん 爲 に 來 り し 者、又 汚 鬼 を 患 う る 者 あり き、彼 等 醫 されたり。衆 民 彼 に 捫 ら ん と 欲 せ
 り、蓋 能 彼 よ り 出 で て、衆 を 醫 せり。彼 は 目 を 擧 げ て、其 門 徒 を 視 て 曰 えり、神 の 貧
 し 者 は 福 なり、神 の 國 は 爾 等 の 有 な ば ば なり。今 飢 う る 者 は 福 なり、爾 等 飽 く
 を 得 ん と す べ ば なり。今 泣 く 者 は 福 なり、爾 等 笑 う を 得 ん と す べ ば なり。人 の 子 の 爲 に
 人 人 爾 等 を 憎 み、爾 等 を 絶 ち、且 詬 り、爾 等 の 名 を 惡 し き 者 と して 棄 つ る 時 は、爾
 等 福 なり、其 日 に 喜 び 樂 め よ、天 に は 爾 等 の 賞 多 け ば ば なり。

(比較用 口語訳) その時イエスは平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りるようになるからである。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸 す。

※代式祈祷③へ